

令和7年度

吉野川市立知恵島小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本の定着と主体的に学習に取り組む態度を育成するための指導方法の工夫と改善
- 話し合い活動などの伝え合う活動の充実

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身につけられており、与えられた課題に真面目に取り組む児童が多い。 ●長文を正確に書いたり読み取ったり、身につけた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の課程を通して、習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面でも活用することができる。 ・学年の発達段階に応じて、文章の中心や具体例の部分などを読み分けて、趣旨を捉えたり、問いの意図を理解したりして、文章を書いたり読み取ったりすることができる。	①朝の学習の時間や家庭学習の時間を使い、基礎的な内容や発展的な内容のプリント学習や個々に応じたタブレット学習の時間を設ける。 ②長文を正確に読むための語彙の量と質の充実を図るために、読書活動の充実、詩や短文の音読や視写など行い言語活動の充実を図る。 ③研究授業を通して、相互に授業参観を行う。	落ち着いた学習に取り組むように学習環境を整えていく。個々に応じたタブレット学習を課題が早く終わった児童や宿題などで積極的に取り入れる。	①基礎的・発展的な内容のプリント学習や個々に応じたタブレット学習の時間をどの学年も設けることができた。 ②読書活動は、学年に応じて取り組むことができた。また、音読は、必要な単元に応じて宿題に出したり、視写は、自習中や自主勉強に出したりするなどして取り組むことができた。ただ、この活動を通して児童に語彙力が身につく活用するところまでは至っていない。 ③特別活動(話し合い活動)を中心に相互に授業参観することができた。他の教科が十分に参観することができなかった。	・本年度途中からタブレットが新しくなり、活用の頻度も増えた授業中の課題が早く終わった時やタブレット学習の日を設けるなどしてタブレット使用の日常化をさらに進めていく。 ・読書の時間が少ない学年も多く、語彙力をつけるために、読書を必然的に行う場を作るなど工夫を行っていく。 ・基礎的な学力の定着をさらに図っていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発表の話型が身につけられており、自分の伝えたいことを文章化しておくこと、進んで伝えられる児童が多い。 ●感じたことや学習したことから必要な情報等を取り入れて、自分の考えをまとめ、発表等で表現するのに個人差がある。	・話し合い活動等を通して、相手の意見を肯定的な気持ちで聞き、各学年の発達段階に応じて、発表したり、文章に書いたりして自分の思いを表現できるようにする。	①ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ②ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ③学級会等の話し合い活動を通して、気付いたり感じたりしたことをフィードバックし、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を支援する。	ペア学習を積極的に取り入れる。学級会などの話し合い活動を積極的に話し合い活動を行う。	①ペア学習やグループ学習の時間を学年や教科に応じて行うことができた。 ②ホワイトボードやICTを活用した発表を行ったが頻度は少なかった。 ③学級会を通して児童同士でフィードバックをする時間を確保したりよりよい話し合いの技法を支援したりすることができた。	・学年の発達段階に応じて話す・聞くのルール作りを行い、徹底していく。 ・ペアやグループ学習の機会を増やし、相手の考えを取り入れながら自己の学びも深まるような授業を行えるように授業改善を行う。 ・自分で解決する能力を育むために、さらに問題解決型学習にも取り組んでいく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○どの学年においても、与えられた課題や宿題を真面目に取り組むことができる。 ●難しい問題は、解説を待ち、自分から進んで解こうとしない児童もいる。	・各教科の学習に、主体的に取り組むことができる。 ・自主学習に自分から進んで取り組むことができる。 ・「何を学ぶのか」を理解し、「何を学んだのか」などを自己評価し、次の学習への意欲をもつことができる。	①主体的に学習に取り組めるように、学校全体で授業規律の共通理解を図る。 ②各教科で、児童が主体的に学習できるように、学習形態を工夫した授業を行う。 ③家庭学習や自主学習の手引きを作成し、児童が意欲的に取り組めるようにする。 ④家庭学習充実週間に「家庭学習がんばりカード」を通して、めあてが達成できるように声かけを行う。	主体的に家庭学習や自主学習の手引きをもとに、意欲的に学習するように声をかける。主体的に学習できている児童の自主学習ノートを紹介したり掲示したりする。	家庭学習頑張りカードを通して「めあて」を達成できる児童が多かった。休日に学習する児童が少なかった。また、自主勉強ノートは、頑張っている児童の自主勉強を教室に掲示して意欲を高めることができた。	・総合的な学習の時間や生活・特別活動の時間等に、児童の主体的な活動をさらに取り入れていく。 ・自主勉強ノートは、教科だけでなく、自分のやりたいことや調べたいことをするように促すなどして、自主学習の幅を広げようとする。 ・次時への学習の意欲やさらに興味を持ったことを深められるように、各教科において単元末の終わりにふり返りを丁寧に行っていく。